

トビウオ通信 (H21 第10号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成21年度下半期浮魚中長期漁況予報》

平成21年10月に長崎市において開催された東シナ海～日本海西南海域にかけての対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を基に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の平成21年度下半期(11～3月)の中・長期的な漁模様の予測をします。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔平成21年度下半期(11～3月)〕

マアジ:前年・平年を上回る

マサバ:平年を上回り、前年並み

マイワシ:前年並み

カタクチイワシ:前年・平年並み

ウルメイワシ:前年・平年並み

※平年：過去5年間の平均値

マアジは前年・平年を上回る

東シナ海～日本海南西海域の漁況と

今後 東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジのここ数年の漁獲量は減少傾向にありましたが、平成20年はやや増加しました(図1)。平成21年は9月までで前年の漁獲量の9割に達しており、11～3月期も前年を上回るとみられています。

一方、同海域の沿岸域における平成21年4～8月期の漁獲状況は、前年・平年を下回っており、今後の漁況は前年を上回り、平年並みと推定されています。

山陰沖の漁況と今後

島根県の中型まき網によるマアジの漁獲量は3万トン前後で推移しており、平成21年9月までのマアジの漁獲量は約2万7千トンで、前年同期の1.7倍、平年同期の1.3倍でした(図1)。

例年、11～3月期は0～1歳魚が漁獲の主体で、2歳魚以上も漁獲されます。毎年、島根県、鳥取県および日本海区水産研究所が行っているマアジ新規加入量調査* (マアジ0歳魚の山陰沖への来遊量を調べる調査)の結果をみると、来遊量の多寡を表す加入量指数は、来遊量の多かった前年と同程度でした。従って、0歳魚(H21年生まれ)と1

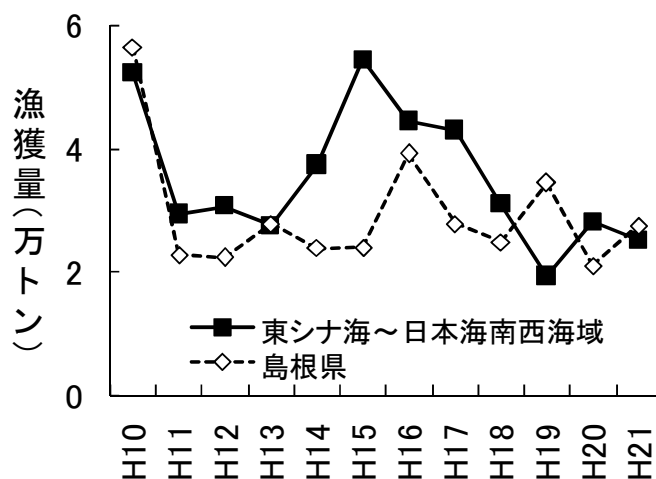


図1. 東シナ海～日本海南西海域(大中型まき網)および島根県(中型まき網)のマアジ漁獲量の推移

※H21は9月までの集計値

歳魚（H20 年生まれ）の豊度は高く、2 歳魚（H19 年生まれ）も前年並みであるため、全体として来遊量は多く、11～3 月期の漁況は、前年（約 7 千トン）・平年（約 1 万トン）を上回ると推定されます。

※マアジ新規加入量調査の詳細については「トビウオ通信 H21 年第 8 号」をご覧ください。

マサバは平年を上回り、前年並み

東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は、近年は低位横這いでしたが、平成 20 年はやや増加しましたが（図 2）。平成 21 年の 9 月までの漁獲量は約 3 万トンでした。

島根県の中型まき網によるマサバの漁獲量は平成 17 年以降増加傾向にあります。平成 21 年は 9 月までの漁獲量は前年同期の 5.0 倍、平年同期の 1.6 倍でした（図 2）。例年、9 月以降が主漁期で、漁獲の主体は 0～1 歳魚となります。これまでの漁況の経過から 0 歳魚（H21 年生まれ）の豊度は、今年の豊漁を支えた 1 歳魚（H20 年生まれ）並みかやや下回るとされています。よって、11～3 月期の漁況は冷水域の張り出し具合によりますが、平年（約 9 千トン）を上回り、前年（約 1 万 4 千トン）並みと推定されます。

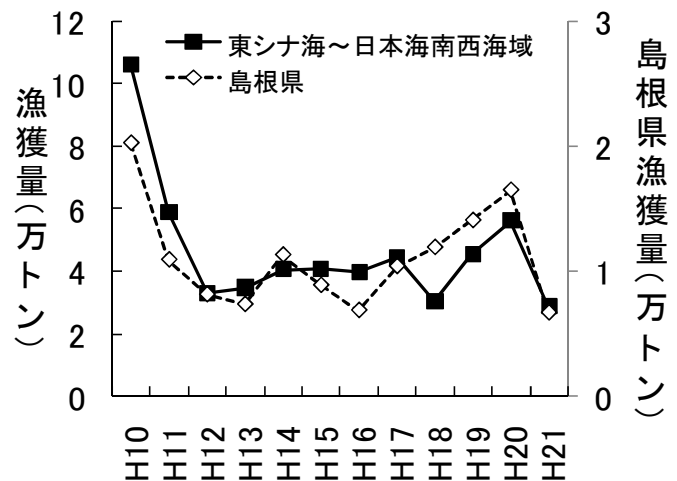


図 2. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマサバ漁獲量の推移
※H21 は 9 月までの集計値

マイワシは前年並み

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は平成 15 年以降やや回復傾向にあります。平成 21 年は 7 月以降に 0 歳魚（H21 年生まれ）を主体に散発的な漁況が続き、9 月までの漁獲量は約 4 千トンで、前年同期の 1.1 倍、平年同期の 2.7 倍となっています（図 3）。

過去 5 年間でみると 11～3 月期は 3 月が主漁期で、1～3 歳魚が漁獲の主体となります。これまでの漁況の経過と調査船による魚探調査の結果から H21 年生まれは前年並みかやや下回り、H20 年生まれは前年を上回り、H19 年生まれは前年を下回ると予測されていること、また、漁場は日本海の沿岸域が中心になると考えられていることから、11～3 月期の来遊量は前年並みと推定されます。ただし、資源水準は依然として極めて低いため、以前のような豊漁につながる来遊は当分先だと思われま。

カタクチイワシは前年・平年並み

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成 13 年以降増減しながら低調に推移しています。平成 21 年は 3～5 月に 1 歳魚を主体にまとまって漁獲され、9 月までの漁獲量は約 9 千トンで、前年同期の 7 割、平年同期の 1.1 倍でした（図 3）。

過去 5 年間でみると、11～3 月期は 3 月以降が主漁期で、1～2 歳魚が漁獲の主体と

なります。これまでの漁況の経過と調査船による魚探調査の結果からカタクチイワシのH21年春生まれは平年より少ないものの、前年よりは多いとされています。また、資源水準は中位増加傾向で安定しています。従って、11～3月期の漁況は、3月が主漁期になり、前年（約6千トン）・平年（約5千トン）並みと推定されます。

ウルメイワシは前年・平年並み

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成14年以降4千トン前後で安定して推移しています。平成21年は3～4月に1歳魚を主体にまとまって漁獲され、9月までの漁獲量は約4千トンで、前年同期の1.6倍、平年同期の1.2倍でした(図3)。

例年、11月～3月期は0歳魚が漁獲の主体となります。これまでの漁況の経過と調査船による魚探調査の結果から、H21年生まれの豊度は前年並みと考えられています。従って、11～3月期の漁況は、前年（約1,300トン）・平年（約1,500トン）並みと推定されます。

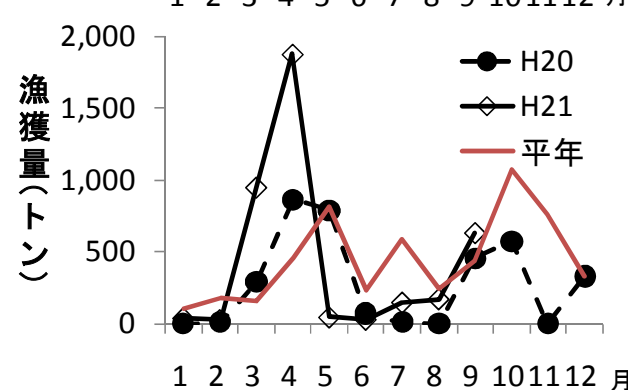
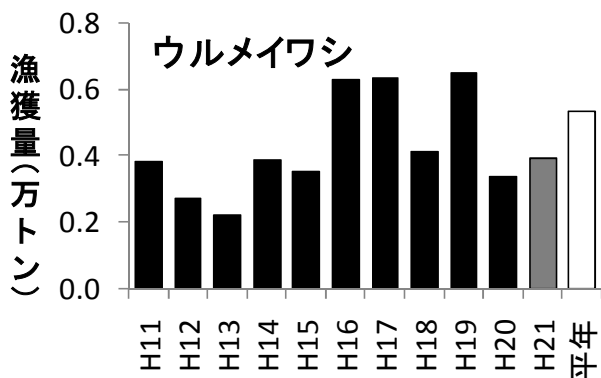
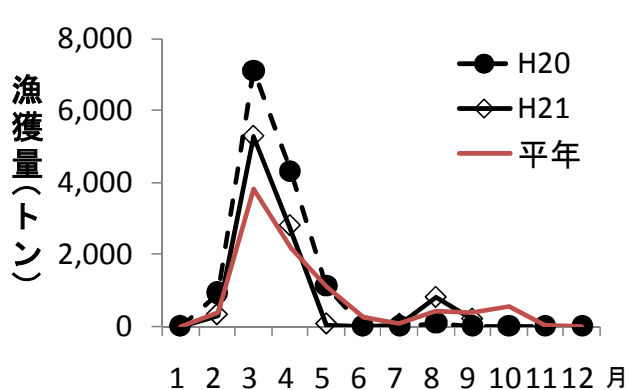
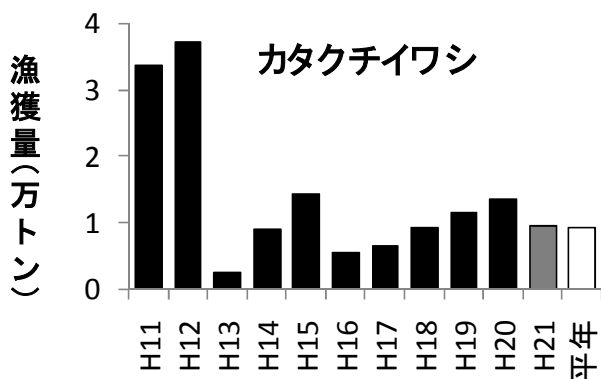
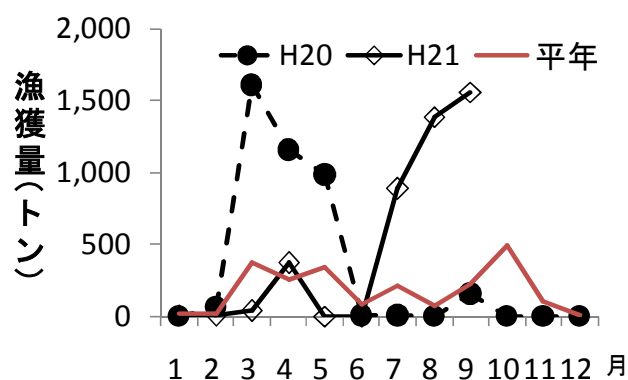
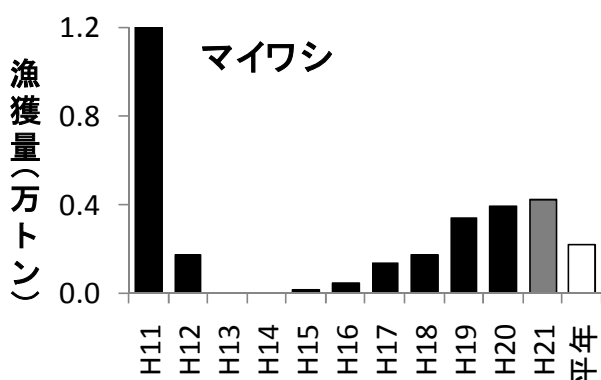


図3. 島根県中型まき網によるイワシ類の漁獲量推移 (左: 年別、右: 月別)
 上段: マイワシ、中段: カタクチイワシ、下段: ウルメイワシ
 ※H21年は9月までの集計値